



Title	井元秀剛教授 略歴
Author(s)	
Citation	Gallia. 2026, 65, p. 3-7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104471
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

井元秀剛教授 略歴



- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 1960 年 10 月 24 日 | 福岡県福岡市に生まれる |
| 1967 年 4 月 | 北海道赤平市立住友赤平小学校入学 |
| 1973 年 3 月 | 同卒業 |
| 1973 年 4 月 | 北海道赤平市立住友赤平中学校入学 |
| 1976 年 3 月 | 同卒業 |
| 1979 年 4 月 | 函館ラサール高校入学 |
| 1979 年 3 月 | 同卒業 |
| 1980 年 4 月 | 東京大学文科 III 類入学 |
| 1985 年 3 月 | 東京大学教養学部教養学科第二フランスの文化と社会卒業 |
| 1985 年 4 月 | 東京大学大学院人文学研究科仏語仏文学専攻修士課程入学 |
| 1986 年 10 月 | パリ第 8 大学修士課程留学 |
| 1987 年 9 月 | 言語学修士号（パリ第 8 大学）取得 |
| 1989 年 3 月 | 東京大学大学院人文学研究科仏語仏文学専攻修士課程修了 |
| 1989 年 4 月 | 東京大学大学院人文学研究科仏語仏文学専攻博士課程入学 |
| 1991 年 10 月 | パリ第 8 大学博士課程留学 |
| 1993 年 9 月 | 東京大学大学院人文学研究科仏語仏文学専攻博士課程単位
取得退学 |
| 1993 年 10 月 | 大阪大学講師言語文化部 |
| 1996 年 10 月 | 大阪大学助教授言語文化部 |
| 1999 年 7 月 | 言語学博士号取得（パリ第 8 大学） |
| 2005 年 4 月 | 大阪大学助教授大学院言語文化研究科配置換 |
| 2007 年 4 月 | 大阪大学准教授大学院言語文化研究科配置換 |
| 2014 年 10 月 | 大阪大学言語文化研究科言語文化学専攻教授 |
| 2022 年 9 月 | 大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻教授配置換 |

井元秀剛教授 研究業績一覧

単著

1. *Le problème linguistique de la référence des syntagmes nominaux en français et en japonais*, ANRT, 2003
2. 『メンタルスペース理論による日仏英時制研究』, ひつじ書房, 2010
3. 『中級フランス語時制の謎を解く』, 白水社, 2017

共著

1. 「認知言語学」『言語文化概論』大阪大学出版会, 69-82. 1997.
2. 「コピュラ文をめぐる名詞句の意味論と語用論」『シュンポジオン 高岡幸一教授退職記念論文集』朝日出版社, 13-22. 2006.
3. 「フランス語における Est-ce que 型の疑問文について」『言語と文化の展望』英宝社, 575-591. 2007.
4. 「過去形に対応する現在形」『テキストの生理学』朝日出版社, 167-180. 2008.
5. 「定冠詞と範列 (paradigme)」『フランス語学の最前線 1』ひつじ書房, 115-139. 2012.
6. *Autour des verbes : constructions et interprétations*, John Benjamins, 2013.
7. 「フランス語における現在形の特徴」『フランス語学の最前線 2』ひつじ書房, 295-330. 2014.
8. 「ヨーロッパ言語の中の英語—フランス語の視点から—」『英語教育徹底リフレッシュ—グローバル化と 21 世紀型の教育』開拓社, 249-251. 2017.
9. 「フランス語の視点に関する覚え書き」『CORRESPONDANCES』朝日出版社, 721-733. 2020.

辞書

1. 『ロベール・クレ仏和辞典』(共訳) 駿河台出版社, 2011,

論文

1. 井元秀剛 (1995) 「役割・値概念による名詞句の統一的解釈の試み」『言語文化研究』21 大阪大学, 97-117.
2. "Le nom propre et la thèse de la dénomination", 『フランス語学研究』30, 14-26. 1996.
3. "Les pronoms démonstratifs *celui-ci* et *celui-là*", *Etudes de Langue et Littérature Françaises* 70 Société Japonaises de Langue et Littérature Françaises. 1997.
4. 「指示性と周知性の関連について —「あの N」と ce N をめぐる対象言語学的

- 考察一」『フランス語学研究』34, 14-26. 2000.
5. 「メンタルスペース理論におけるフランス語のテンス・アスペクト・モダリティー研究の可能性」『言語文化共同研究プロジェクト 2000 現代フランス語のテンス・アスペクト・モダリティー』大阪大学, 27-36. 2001
 6. 「メンタルスペース理論における定名詞句の指示について」『言語文化共同研究プロジェクト 2000 言語における指示をめぐって』大阪大学, 21-36. 2001
 7. 「未来形はテンスなのか?」『Gallia (大阪大学フランス語フランス文学会)』, 3-10. 2001
 8. 「主観的用法とされる定冠詞について」『言語文化共同研究プロジェクト 2001 言語における主観性をめぐって』, 1-10. 2002.
 9. 「メンタルスペース理論からみたフランス語の近接未来」『言語文化共同研究プロジェクト 2002 言語における時空をめぐって』大阪大学, 1-8. 2003
 10. 「フランス語における VV 構文と VOV 構文について」『言語文化研究』, 129-149. 2003
 11. "A Single Meaning Approach to the Semantics of "any"", *Journal of Hokkaido Linguistics* 3, 29-40. 2004.
 12. 「スペースと名詞句解釈」『言語文化共同研究プロジェクト 2003 言語における時空をめぐって II』大阪大学, 1-12. 2004.
 13. 「メンタルスペース理論に基づく英仏語の未来時制対照」『言語文化共同研究プロジェクト 2004 言語における時空をめぐって III』, 1-10. 2005
 14. 「報道文にみられるコピュラ文の単純形と反復形」『フランス語学研究』39, 15-28. 2005
 15. 「英仏日本語における時制の基準点」『言語文化共同研究プロジェクト 2005 言語における時空をめぐって IV』, 1-10. 2006
 16. "L'expression de la "réflexivité" en japonais et en français : étude comparative", *Modèles linguistiques* tome28-2, vol56, 11-35. 2007.
 17. 「過去と仮定性」『言語文化共同研究プロジェクト 2006 言語における時空をめぐって V』, 1-10. 2007.
 18. 「日本語の視点、英仏語の視点」『水声通信』19, 88-97. 2007.
 19. 「未完了は半過去の本質的属性か」『言語文化共同研究プロジェクト 2007 言語における時空をめぐって VI』, 1-10. 2008.
 20. 「「た」の過去性と過去の意味」『言語文化共同研究プロジェクト 2008 言語における時空をめぐって VII』, 11-20. 2009
 21. 「日仏言語における「現在」- V-POINT をめぐる対照研究-」『言語文化研究』36, 5-24. 2010.
 22. 「「定 / 不定」をめぐる対照研究の方法」『言語文化共同研究プロジェクト 2009 言語における時空をめぐって VIII』, 11-20. 2010
 23. 「日仏言語における「現在」- V-POINT をめぐる対照研究-」『言語文化研究』36, 5-24. 2010

24. "Le défini et l'indéfini dans une langue sans article", *Langue française* 171, 13-26. 2011.
25. 「言語学が扱う時間の流れ」『Gallia（大阪大学フランス語フランス文学会）』50, 65-74. 2011
26. 「日本語における従属節内のテンスに関する一考察」『言語文化共同研究プロジェクト 2010 言語における時空をめぐる IX』, 1-10. 2011.
27. 「日本語とフランス語の談話構成原理」『フランス語学研究』46, 1-17. 2012.
28. 「テイル形の意味構造」『言語文化共同研究プロジェクト 2011 時空と認知の言語学 I』, 1-10. 2012.
29. 「反実仮想条件文に見られる半過去に関する一考察」『川口順二教授退任記念論集』web.keio, 45-53. 2012.
30. 「ト条件文のスペース構成と意味」『言語文化共同研究プロジェクト 2012 時空と認知の言語学 II』1-10. 2013.
31. 「ト条件文とタラ条件文の使い分け」『言語文化共同研究プロジェクト 2013 時空と認知の言語学 III』, 1-10. 2014
32. 「間接話法における時制－直示中心の移動か時制の一致か－」『言語文化共同研究プロジェクト 2014 時空と認知の言語学 IV』, 1-10. 2015.
33. 「条件文におけるスペース構成」『言語文化研究』42. 2016.
34. 「フランス語間接話法における時制」『言語文化研究』44, 1-18. 2018.
35. 「アスペクト研究覚え書き」『言語文化共同研究プロジェクト 2017 時空と認知の言語学 VII』.1-10, 2018.
36. 「語順と呼応の関係についての一考察」『言語文化共同研究プロジェクト 2018 時空と認知の言語学 VIII』, 1-9. 2019.
37. 「日本語従属節のテンス構造」『言語文化共同研究プロジェクト 2020 時空と認知の言語学 IX』, 1-10. 2021.
38. 「自然言語で連言をあらわす「または」の意味について」『言語文化共同研究プロジェクト 2022 時空と認知の言語学 XI』, 1-9, 2023.

書評

1. KLEIBER, Georges (2001): *L'anaphore associative*, PUF, 『フランス語学研究』37, 95-96, 2003.
2. BRES, Jacques. (2005), *L'imparfait dit narratif*, CNRS éditions 『フランス語学研究』40, 47-48, 2006.
3. DELESSE, C. (2006), *Discours rapporté(s). Approche(s) linguistique(s) et/ou traductologique(s)*, Artois Presses Université 『フランス語学研究』42, 52-53, 2008.
4. Vuillaume, M. (ed.), (2008), *Cahiers chronos 20 Ici et maintenant*, Rodopoi 『フランス語学研究』44, 94-95, 2010.

教科書

1. 『新・フランス語文法』（共編著），朝日出版社，2003 年 4 月.
2. 『余裕のフランス語』（単著），白水社，2004 年 3 月.
3. 『新・フランス語文法（改訂版）』（共編著），朝日出版社，2006 年 10 月.
4. 『新・フランス語文法（新訂版）』（共編著），朝日出版社，2013 年 1 月.
5. 『新・フランス語文法（三訂版）』（共編著），朝日出版社，2017 年 1 月.
6. 『新・フランス語文法（四訂版）』（共編著），朝日出版社，2023 年 1 月.